

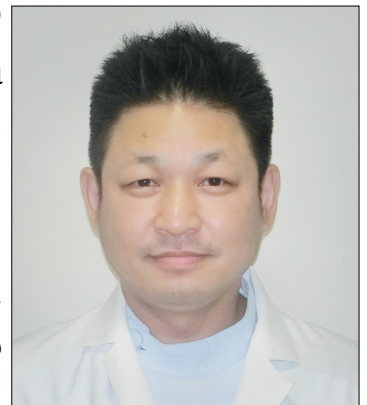


MR I装置がリニューアル!

2023年1月からの院内改修工事と調整期間を経て、この7月10日より新たな1・5テスラ全身用MR I装置「Vantage Fortian（ヴァンテージ フォルティアン）」が稼働しました。キャノン製のこの装置は昨年 発表されたばかりで、当院への導入が道内1号機となります。

この装置の大きな特徴は、装置の開口径が71cmと非常に広く、検査空間も明るくなったことで、検査中の圧迫感がかなり和らぐようになったことです。また、撮像中の音を抑える静音化技術が向上し、これまでと比べて快適な検査を提供できるようになりました。

技術面では、画像のクオリティを引き上げるために、AI（ディープラーニング）を用いてノイズを除去する技術が搭載されています。この技術により、高精細な画像が短時間で撮像 出来るようになり、検査時間の短縮が可能となりました。その他、患者の撮像中の動きによる画像のブレ補正やゆがみ補正など、MR I検査の安定性を向上させる機能が組み込まれています。



診療放射線科 阪井科長

高度化する医療現場において、より精度の高い医療のために検査の質の向上だけでなく、MR I装置に求められる性能も高まっています。新たに稼働した装置は頭の検査はもとより、頸椎から腰椎までの脊椎や肝臓など腹部の検査、また胸部から 腹部、足の先に至る血管の描出にも優れており、「より高精度で、効率的な検査を行いたい」というニーズに応えたMR I装置となっています。



MR I装置 「Vantage Fortian」 (キャノンメディカルシステムズ社製)

地域リハビリテーション支援活動

現在リハビリテーション科では、新発寒福祉のまち推進センター（新発寒地区社会福祉協議会）の依頼で、区民皆様の健康寿命延伸に向けた「地域リハビリテーション支援活動」を行っています。写真は「腰痛予防」の講話の様子ですが、講話では、腰痛の原因となる姿勢や動作の注意点、日常生活でできるストレッチやエクササイズ（資料）、腰痛がひどくなったときの対処法などを、実技も含め分かりやすく解説してきました。50名を超える参加があり、参加者からは、「腰痛に悩んでいたが、今日の講話で気をつけるべきことがわかった」「自宅でできる運動を教えてもらって助かった」「リハビリの先生が優しく丁寧に教えてくれた」といった感想が寄せられました。

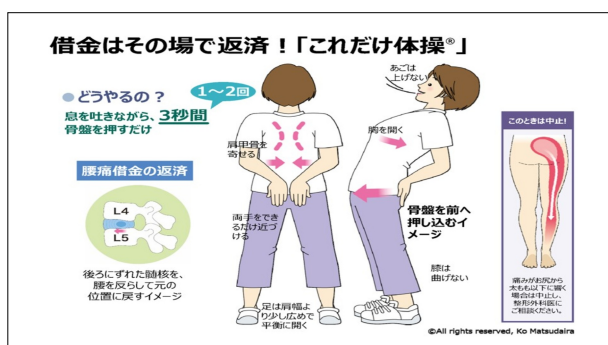


リハビリテーション科 杉原科長

今後も手稲区民の健康寿命延伸に向け貢献できるよう、地域リハビリテーション支援活動に取り組んでいきたいと考えています。



腰痛予防の講話 実技演習の様子



ストレッチやエクササイズ（資料）